地域にとって有って良かったと思われる岩北署を目指して

岩手北部森林管理署　春原武志

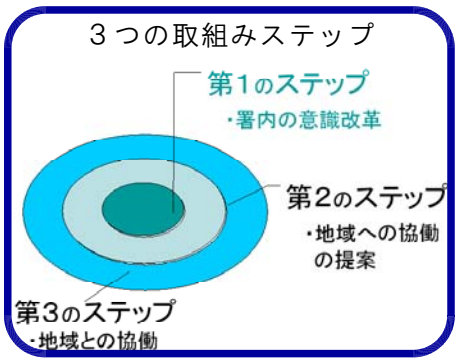
1　課題を取り上げた背景

国民視点に立った署の改革に取組んだ背景は、平成１１年３月に岩手北部森林管理署としてスタートして、１０年経った今、若い人達の中には、署の存在自体を知らない人も多くなり、荒屋新町と言う国有林地帯においても、地域と署の距離が広がっている状況にある。また、長引く林業不振により、地域の皆さんから、「最近、荒れた山が多くなり悲しい気持ちになります、どうにかなりませんか」との声も聴かれ、今後、美しい森林づくりを進める上で、森林・林業の専門家集団である森林管理署に対する期待が高まっていると感じている。

このような中、岩北署は、荒屋新町と言う山村地域の最前線に位置し、山村地域の現状を実際に目で見、耳で聴くことができ、国有林と言うフィールドを使って、解決策を試してみることができると言うメリットを持っている。このため、地域のニーズの把握、地域にとって最善の選択肢の提案、地域との協働による林業の再生、山村地域の活性化を図る。このことにより、地域に信頼され、頼りにされる署が実現でき、岩北署の存在意義を示すことになると考え、「地域にとって、有って良かったと思われる岩北署」の実現を目指すこととした。

2　研究の方法及び経過

目標達成に当たっては、第１のステップである署内の意識改革、第２のステップである地域への協働の提案、第３のステップである地域との協働の３つのステップを段階的に進めていくこととし、本年度は、第1のステップである署内の意識改革に取組むこととした。



(1) 目標達成に向けた取組ステップ

①第１のステップ

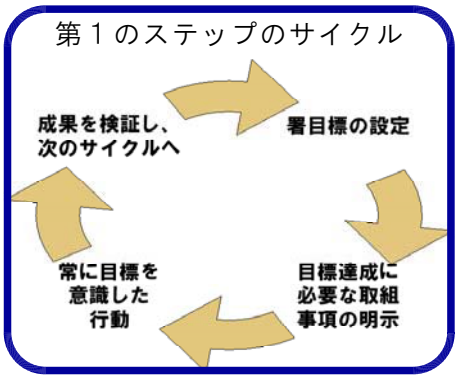
・署内の意識改革～地域を第１に考え行動する～

②第２のステップ

・地域への協働の提案～地域をより良くしたい～

③第３のステップ

・地域との協働～地域林業の再生、美しい森林づくり～



(2) 第１のステップにおける取組サイクル

署内の意識改革に当たっては、１、署の目標設定、２、目標達成に必要な取組事項の明示、３、常に目標を意識した行動、４、成果を検証し、次のサイクルへと言う４つ項目を設定し、取組を行なうこととした。

①署目標の設定

まず、第１歩である署の目標については、当署においては、林野庁や局の目標を踏まえ、５つの目標を掲げて業務を進めている。そこで、これらの目標を総括し、地域の人達に分かりやすい目標を設定することとし、「「地域にとって、有って良かったと思われる岩北署」を目指し、馬淵川上部の山村・林業を元気にして、美しい森林づくりを進める」を署の目標として設定した。

②目標達成に必要な取組事項の明示

次に設定した目標をどのように達成していくのかを明確に示し、取組んでいくことが重要と考え、署独自のＰＲ版を作成した。このＰＲ版により、署内でのやるべき事項の共有化を図るとともに、地域に対しては、署が何をしたいのか、そのために何をやろうとしているのかを分かりやすくかつ積極的に説明していくこととした。

③常に目標を意識した行動

次の段階として､職員一人ひとりが常に目標を意識した行動ができることを目指した。

そのための手段として、スローガン及び行動指針の設定、今週の出来事の配信の３つ事項に取組むこととした。

ア　スローガンの設定

まず初めに、署の取組姿勢を一言で表現するスローガンを設定し、職員の動機づけと地域へのアピールに活用することとした。

スローガンは、「美しい森林　元気な山村　頑張る岩北署」とし、署のＰＲ版など地域に出す資料には、左肩につけるようにした。

イ　行動指針の設定

二つ目として、職員が行動する時の手引きなるよう行動指針を設定した。これは、美しい森林づくりを進める上で、地域の声を聴いて企画する、地域に分かってもらえるように説明する、地域の声を聴きながら絶えず見直しをする、一人ひとりが自ら考えて行動する、誰もが自由に意見を言える職場にすることを掲げ、これらの取組の前提となる、地域の人が気軽にきてもらえる明るい職場づくりを一番に掲げた。

ウ　今週の出来事の配信

三つ目として、ガルーンを使って、「今週の出来事」の配信に取組むこととした。これは、署内でやるべき事項に関する情報を共有化するために今年度から毎週金曜日に全職員に配信しているもので、１月末現在で４３回、Ａ４版で約３００頁の配信となっている。

今週の出来事の綴り

この今週の出来事は、送信文、来週の主な予定、今週の出来事、今週の問いかけ、来週の目標の５つで構成している。ポイントは、二つの目と三つ目で、二つ目の来週の主な予定では、行事ごとに何を目的に行なうかについて記述している。また、三つ目の今週の出来事では、予定で掲げた目的が達成できたか、取組によって明らかになった課題や次回に向けた改善のポイント等を記述している。

今週の出来事では、なぜ上手く行ったのか、今後更に良くするためには、何をする

必要があるかが分かるように心がけている。

1	送信文	今週を出来事を総括して記述
2	来週の主な予定	来週予定している行事ごとに何を目的に行なうかを記述
3	今週の出来事	予定で掲げた目的が達成できたか、取組によって明らかになった課題や次回に向けた改善のポイント等を記述
4	今週の問いかけ	農林水産省行動規範である７つの問いかけを現在、署が抱えている課題に応じて対象をアレンジして記述
5	来週の目標	岩北署の行動指針から１つ選んで記述

④成果を検証し、次のサイクルへ

第１のステップの最終段階として、取組の成果を検証するとともに、その検証結果を踏まえて次のステップに進む取組を行なっている。具体的には、元気な岩北署コーナーの設置と出署日での取組事項の検証の２つの事項に取組んでいる。

元気な岩北署コーナーでは、行事ごとに結果の概要を３枚程度にまとめ、玄関の掲示板に掲示している。このペーパーにより、直接その行事を担当していない職員でも、行事の目的や成果等についての情報の共有化が図れるとともに、地域からの問合せや説明の際に、誰もが的確かつ速やかに対応できることになる。

また、概ね４半期ごとに開催している出署日での取組として、これまでの実施状況を検証し、その検証結果を今後の取組に反映させるようにしている。

３　研究の結果

以上のように、今年度は、第１のステップとして、署の意識改革に取組んできた結果、地域を第１に考え行動する」ことが職員一人ひとりに定着し、各職員のスキルが向上するとともに、関係する市や町との連携が促進するとの成果をあげることができた。

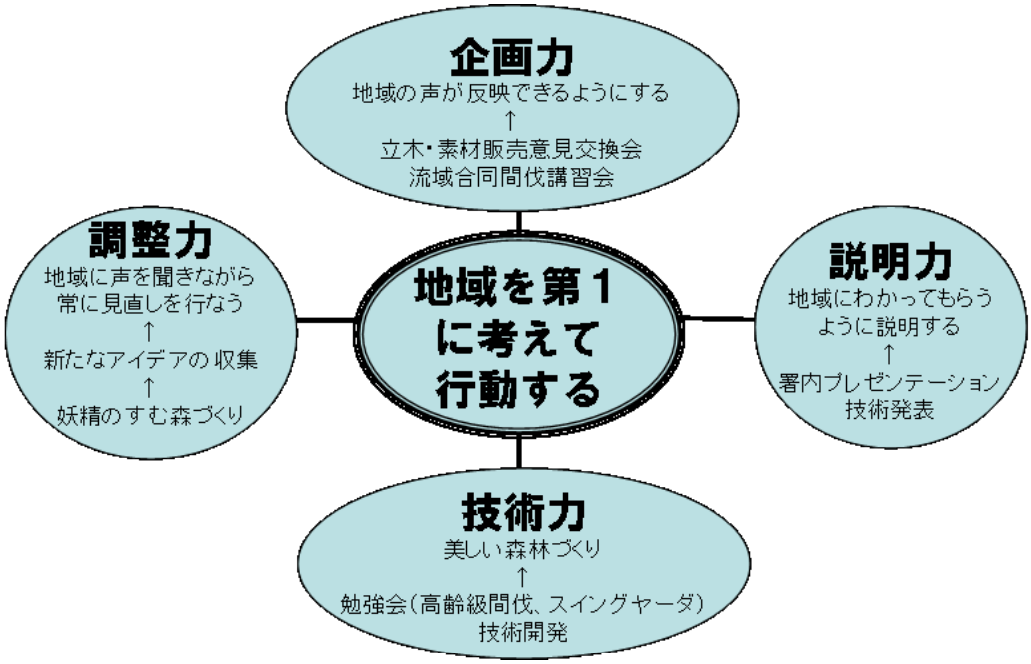
(1)署全体のスキルアップ

地域ニーズを踏まえた美しい森林づくりを進めるためには､職員一人ひとりの企画力、説明力、調整力、技術力の向上が求められる。このため、業務に当たっては、地域を第１に考えて行動することとし、勉強会等により、それらの能力の向上に努めた。

この結果、午前中に田山小学校の子供達から発表があったような、教育サイドとの双方向型のコミュニケーションよる総合的な森林環境教育の充実が可能となった。

また､八幡平市との共同研究による｢天然更新を活用した牧草地の森林化技術の開発｣や高性能林業機械と列状間伐、高密度路網を組合わせた高効率な間伐作業システムの定着・普及等の取組においても、着実な前進がみられている。

項　目	能　力	取　組
企画力	美しい森林づくりに地域の声が反映できるようにする。	・立木・素材販売意見交換会 ・流域合同間伐講習会
説明力	美しい森林づくりを地域にわかってもらうように説明する。	・署内プレゼンテーション ・森林・林業技術交流発表会
技術力	美しい森林づくりに必要な森林・林業に関する技術	・勉強会 （高齢級間伐、スイングヤーダ） ・牧草地の森林化技術の開発
調整力	地域の声を聴きながら常に見直しを行なう。	・農畜産体験と連携した森林環境教育のフィールド整備：妖精のすむ森づくり



(2) 市町との連携の促進

地域を第1に考え行動することにより、地域のニーズを実現させるための創意工夫が定着し、市町との信頼関係の構築され、連携策の促進が見られるようになった。

市町名	ニーズ	取　組
八幡平市	・豊かな環境づくり	・牧草地の森林化技術の開発 ・あっぴ高原遊々の森の整備

一 戸 町	・文化財を核にした町づくり	・北限のイヌブナ林の適切な保護管理
二 戸 市	・浄法寺漆の振興	・ウルシの分収造林
葛 巻 町	・農山漁村プロジェクトの推進	・地域の声を踏まえた森林環境教育のファイルドの整備

管内の各市町とは、上記の表のように、地域ニーズを踏まえた連携策に取組んでいる。

例えば、葛巻町では、町を挙げて農業や畜産業、新エネルギーの体験活動に取組んでおり、３省連携による子ども農山漁村プロジェクトの受入地域にもなっている。このため、同じく午前中に当署の森林官が発表したように、これまで葛巻町で行なってきた体験活動を更に充実させるための森林・林業のフィールド整備を通じて、葛巻町との連携を促進させることができたと考えている。

4　考察

第１ステップの署内の意識改革を振り返ってみると、「常に目標を意識した行動」が重要であり、そのためには、毎週金曜日に全職員に配信している「今週の出来事」が効果的であることがわかった。

「今週の出来事」は、来週の各種行事の目的を明らかにするとともに、実施結果について、概要をまとめるとともに、成果はどうだったのか、取組により明らかになった課題は何か、課題解決に向けた取組案をリアルタイムで発信することにより、署が何に向かって進んでいるか情報の共有化が図られ、一人一人が自ら考え、行動する姿勢が定着化している。

これにより、第１のステップである「地域を第１に考え行動する」との署内の意識改革が進み、署全体のスキルアップ及び市町との連携の促進と言う形で成果があがってきている。

今後は、第１のステップの「署内の意識改革」のサイクルを更に深化させていくとともに、第２のステップ「地域への協働の提案」、第３のステップ「地域との協働」とステップアップし、最終目標である「地域にとって、有って良かったと思われる岩北署」の実現を目指していくこととする

最後に、先日、ある講演会で最澄の「径寸十枚、国宝にあらず。一隅を照らす人、これ国宝なり」と言う言葉を知った。この言葉のように、岩手北部署と言う山村地域の最前線で、職員一人ひとりが地域を少しでも良くするために、地域を第１に考え行動し、地域の森林・林業の再生に努力することが、岩北署が存在する意義だと考えている。

このため、今後とも、いろいろなアイデアを出しながら、職員が一丸となって、「地域にとって、有って良かったと思われる岩北署」を目指して、これからも取組みを進めていくこととしている。

岩北署のマスコット
「あっぴー君」